

国語

練成口語文法 必修編

Vol.1

• 本書の特色と構成 •

1 本書の特色

- 本書は、既刊の「練成口語文法」を、初学者が学びやすいように、より基本的な内容を精選して、再編成しております。教科書のほとんどの文法履修内容を三分冊で網羅しておりますので、公立入試にも十分対応することができます。
- 内容を精選しておりますので、短期間でも無理なく学習できる量になっています。
- イラストや吹き出しを多数配すなど、紙面構成を工夫し、生徒が学習に取り組みやすい教材になっています。

2 本書の構成

本書は、各単元とも確認問題と練成問題で構成し、問題の前には各単元の基礎知識の習得を目標にした説明を配しています。

◇確認問題

その単元での基礎知識を確認する問題です。説明の流れに沿って出題していますので、基本に立ちかえって、知識を確認しながら学習することができます。

◇練成問題

その単元で学習した基礎知識の定着と、一步進んだ理解とを図る問題です。また、公立の入試問題に対応した問題も適宜取り入れてあります。

◆ 目次 ◆

5	4	3	2	1
単語の分類と品詞	指示語・接続語	文の成分・連文節	文節の働きと相互の関係	文節・単語
20	16	10	4	2

1 文節・単語

ことばの単位(文章 → 段落 → 文 → 文節 → 単語)

1 文章

- 書き手(話し手)の意図によって統一され、全体として一つのまとまりた内容をもつ表現。

2 段落

- 文章の中の、事がうととの内容のまとまり。段落の初めは行を改め、一字下げて書く。

3 文

- 行を改め、最初の一文を下げて書き出したものを「形式段落」、いくつかの形式段落を、内容のつながりのうえからひとまとめにしたもの
- を「意味段落」という。

文節

- 意味を壊さず、発音上、不自然にならない程度に文を区切ったときの、ひと区切りのことば。文を組み立てる単位。
- 「ね」「さ」「よ」などが入れられるところで区切れる。
- 例 「水が／とける。」
- 例 「バラの／花が／咲いて／いる。」
- 例 「どうやら／試合は／終わつたようだ。」
- 例 「午後から／風が／強く／なるそうだ。」
- 例 「いかにも／若者らしい／さわやかな／態度。」
- * 「ようだ」「そうだ」「らしい」などのことばは、直前で区切ると意味を壊してしまうので、区切らずに前の語と合わせて一文節とする。

5 単語

- 意味をもつた最小の単位で、ことばとしては、それ以上分けることができない一つのもの。

- 例 「木村さん／が、／弁論大会／に／出場する。」
- 例 「息苦しい／ので／水面／から／飛び出す。」
- 例 「お客様／を／清潔な／お部屋／に／案内する。」

- * 「木村さん・弁論大会・出場する・息苦しい・飛び出す・お客様・お部屋・案内する」のような単語は、それぞれが一定の意味をもつていいるので、「木村+さん」「息+苦しい」「飛び+出す」などと分けずに、一つの単語と考える。

- * 単語には、「が・ので・から・を・に」のように、上の単語について文節を作るものもある。

- * 「物事を正確に伝えるのは、きわめて難しい。」
- 例 「そうだ！ 先生に相談してみよう！」
- 例 「どこに行こうか？」「ああ、^{つか}疲れたなあ。」
- * 会話文なども文である。



確認問題

1 次の文章の に入る適切なことばを、それぞれ書いて下さい。

(A) 子供が、にこにこ笑っている。

(B) 子供が(ね)、／にこにこ(ね)／笑って(ね)／いる。

(C) 子供／が、／にこにこ／笑つ／て／いる。

(A) のように、まとまった内容を表しているひと続きのことばを、①と言います。そして(A)を、「ね」「さ」「よ」などを入れられるところで区切つたものが、(B)です。(B)の、「子供が」「笑つて」のような、意味が不自然にならない程度に細かく区切つた一つのまとまりを、②といいます。さらにこの(B)を、それ以上分けると意味がわからなくなるというところまで細かく区切つたものが、(C)です。(C)の、「子供」「が」「笑つ」「て」のような、意味をもつた最小のことばの単位を、③といいます。

□	①
□	②
□	③

2 次の文章は、文の終わりに「。」(句点)がついていません。適切な場所に「。」を、それぞれ書いて答えなさい。

□ へ書物は一人で読むものであるのぞきこんでいつしょに読むことはむつかしいし、だいいちそんなことをされたら落ち着かないたとえすぐそばにだれかがいても、読書というのは孤独な個人の行為なのであるだから、日本の茶の間では、例えば、主人が経営学の本を読み、主婦は文学全集を、子供はマンガを、それにだまつて読んでいる、といったような風景が出現する√

練成問題

1 次の(1)~(8)の文を、「例」にならって文節に区切り、その分かれ目に線を引いて下さい。

〔例〕はげしい／雨が／降る。

姉が、高校に入学する。

ことばは、伝達の手段の一つです。

木が、今にも倒れそうだつた。

そのような発言は、つつしんでください。

桜吹雪が、雪のようにならちらと舞い降りてくる。

中学生らしく、明るく活発な生活を心がける。

兄と弟は、いつもつまらないことでけんかを始める。

2 次の(1)~(8)の文を、「例」にならって単語に区切り、その分かれ目に線を引いて下さい。

〔例〕筋肉／を／きたえる。

町で 友人に 出会う。

すばやく うしろを ふりかかる。

お客様に お茶を ふるまう。

ぼくは、マンガの 本が 読みたい。

多数決で、決めようと 思います。

とうふは、大豆から 作られる。

ほんの 少し 勇気が わいて きた。

(8) (7) (6) (5) (4) (3) (2) (1)

2 文節の働きと相互の関係

文節の働き

文節の働きには、次の五つの働きがあります。

1 主語

「何が・だれが」を表す文節。

例 「鳥が 飛ぶ。」「背が 高い。」

例 「ぼくも 行きます。」

例 「君こそ、社長に ふさわしい。」

「主語」と「述語」は、文の骨格をなす重要な働きをすることばなんだよ。



2 述語

3 ① 「どうする・どんなんだ・何だ・ある(いる・ない)」を表す文節。

① 「どうする」…動作・作用・存在を表す。

例 「バスが 発車する。」「氷が とける。」

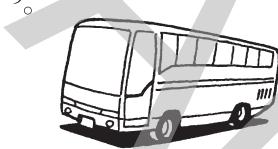
例 「けがが やつと 治る。」

② 「どんなんだ」…様子・状態を表す。

例 「水が 冷たい。」「教室は 静かだ。」

例 「彼は だれにでも 親切だ。」

③ 「何だ」…名前・役割分担・所属グループなどを表す。
例 「ぼくは 生徒会長です。」「あれは 利根川だ。」



例 「五月五日は 妹の 誕生日だ。」

3 修飾語

・「いつ・どうで・だれと・何を・どのよつて・どんな」などを表す文節。

4 接続語

・「原因・理由・条件」などを表したり、前後の文をつないで、その関係を示したりする文節。

例 「転んだので、骨折した。」(原因)

例 「走つたら、間に合うだろう。」(条件)

例 「ドアを ノックした。けれども 反事はない。」(逆接)



① 事物や人などを表すことばを修飾する。(連体修飾語)

例 「弟の 好物は カレーだ。」(だれの)

例 「卒業する 生徒達を見送る。」(どうする)

例 「いろんな 話を 聞く。」(どんな)

例 「泣き声 子供の 声が 聞こえる。」(どんな)

② 動作・作用・様子・状態などを表すことばを修飾する。(連用修飾語)

例 「ぼくたちは 公園で 遊んだ。」(どこで)

例 「彼女は、自転車で 通学する。」(何で)

例 「波が とても 高い。」(どのくらい)

例 「本を きれいに 並べた。」(どのように)



5 独立語

・他の文節とは直接関係がなく、比較的独立している文節。

例 「ああ、何て 美しい 歌声なのだろう。」(感動)

例 「はい、桜は もう 咲いて います。」(応答)

例 「先生、質問が あります。」(呼びかけ)

例 「家族、これが、私の 大切な 宝だ。」(事柄の提示)

確認問題

1 文節の働きと、文節相互の関係について説明した次の文章の、□に入れる適切なことばを、それぞれ書いて答えなさい。（同じ番号の□には、同じことばが入ります）

Ⓐ 父は、読んだ。

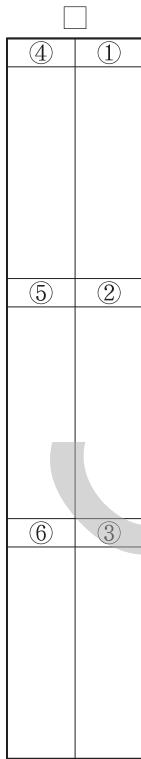
Ⓐの文の、「父は」のように、「～は・が」に当たる文節を①、「読んだ」のように、「～する・～んだ・～だ」に当たる文節を②、③といふ。そして、文の骨格をなしているこの二つの文節の関係を、「①・②の関係」という。

Ⓑ ぼくの 父は、新聞を 読んだ。

Ⓐの文のように、二つの文節だけでは、だれの「父」なのか、何を「読んだ」のかなど、詳しいことがわからない。Ⓑの文では、「ぼくの」が「父は」を、「新聞を」が「読んだ」を詳しくしている。このように、他の文節の内容を詳しく表す文節を③といふ。そして、これらの二つの文節の関係を、「④・⑤の関係」という。

Ⓒ はい、父は、新聞を 読みました。

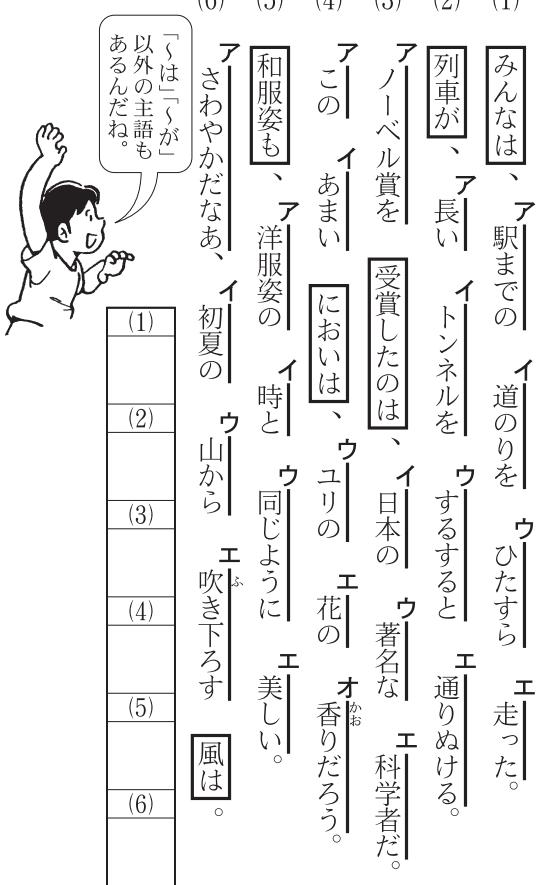
Ⓒの文の「はい」は、何らかの問い合わせに対する応答であり、「父は、新聞を 読みました」の部分とは、直接関係がない。このように、他とは直接関係がなく、比較的独立している文節を⑥といふ。



2 次の(1)～(6)の文の□の述語に対する主語を一つずつ選び、記号で答えなさい。

3 次の(1)～(6)の文の□の主語に対する述語を一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|-----|----------|----------|---------|---------|-------------|
| (1) | ア 子供の | イ ころの | ウ 思い出が、 | エ ふいに | オ よみがえる。 |
| (2) | ア あそこに | イ 見える | ウ 建物は、 | エ 学校の | オ 体育館だ。 |
| (3) | ア さつきさんの | イ 表情は、 | ウ どんな | エ 時でも | オ にこやかだ。 |
| (4) | ア 婦人服の | イ 売り場には、 | ウ 大勢の | エ 客が | オ ひしめき合つた。 |
| (5) | ア 会議では、 | イ たつた | ウ 一つの | エ 議題しか、 | オ 提案されなかつた。 |
| (6) | ア 彼の | イ 活躍に | ウ よって、 | エ なぞは | オ すべて |



4 次の(1)～(6)の文の□が修飾していることばを一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 来年、ア新しいイ校舎がウ建築されるとエ発表された。
 (2) 工事で、アこのイ道はウ半年間もエ通行禁止だつた。
 (3) 热狂的なア会場のイ霧囲気に、ウすっかりエ圧倒された。
 (4) おそらくア午後には、イ雨もウやむだらうとエ思われる。
 (5) 世界中のアあらゆるイ人々が、ウ心からエ平和をオ望む。
 (6) アぼくたちのイチームが、ウ優勝したとは、エ信じられないよ、

今でも。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)

5 次の(1)～(4)の文から、接続語を一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) ア宿題をイ済ませ、ウそして、エ遊びにオ行つた。
 (2) ア努力すれば、イ君のウ夢はエきっとオかなうだらう。
 (3) ア太つたので、イ明日からウ運動しようとエ決意した。
 (4) ア冷やすと、イスイカはウよりエおいしくオ食べられる。

6 次の(1)～(4)の文から、①独立語を一つずつ選び、また、②その独立語の表す内容を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)

7 次の(1)～(8)の文の——線部の、文節相互の関係をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 歌つたり、踊つたりする。
 (2) 二人乗りは、危険だ。
 (3) 急いだけれど、間に合わなかつた。
 (4) ひっそりと静まり返る。
 (5) 教科書を忘れてしまつた。
 (6) 高度な技術を用いる。
 (7) 地震の起こりやすい地域。
 (8) 傷口が痛んできた。

ア 补助・被补助の関係
オ 主語・述語の関係
ウ 並立の関係
エ 接続・被接続の関係

う。(7)
「の」「地震の」
に注意しよ



(1) アちがいます、イあのウ建物は、エ図書館です。
 (2) ア勤勉、イこれがウ私のエ好きなことばですか。
 (3) ア井上さん、イあなたはウどこに行きたいですか。
 (4) アおや、寒いとウ思つたら、エ外はオ雪だ。

ウ感動 イ応答 エ呼びかけ
ウ事柄の提示

(3)	(1)
①	①
②	②
(4)	(2)
①	①
②	②



練成問題

1 次の(1)～(12)の文の、①文全体の主語の右側に一線を、②文全体の述語の右側に～～線を引きなさい。また、③それぞれの文の型を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(3)	
(7)	(1)
(8)	(2)
(9)	(3)
(10)	(4)
(11)	(5)
(12)	(6)

- (1) 日本は、周りを海に囲まれた島国です。
 (2) 私はどんな色も、もともと生命の色だと思う。
 (3) 資格を持っている人は、就職するのに有利だ。
 (4) 上野君こそ、劇の主役にふさわしい。
 (5) 彼女は、素直に謝ろうと、ようやく決心した。
 (6) ラグビーでは、選手は後ろにしか球を投げられない。
 (7) まさしく彼だった、ぼくに真実を告げたのは。
 (8) 秋が深まり、もみじの葉っぱもかなり色づいた。
 (9) ひまわりは、夏に咲く代表的な花だ。
 (10) ぼくが欲しかったのは、電池で動くロボットだ。
 (11) 君のそのかっこは、とても見苦しいよ。
 (12) 山の上では、天候の変化がとても激しい。

ア 何(だれ)が(は)——どうする。
 イ 何(だれ)が(は)——どんなだ。
 ウ 何(だれ)が(は)——何だ。

2 次の(1)～(6)の文の、①□が修飾している文節を一つずつ選び、記号で答えなさい。また、②□は、A連体修飾語、B連用修飾語のどちらですか。それぞれA・Bの記号で答えなさい。

3 次の(1)～(4)の文の□を直接修飾している文節を二つずつ選び、記号で答えなさい。



(4)	(3)	(2)	(1)
ア 私は、 友人の ウ よく	ア 今年も、 おばさんから イ やうやく	ア 関東地方も、 ウ うつとうしい	ア 事態は、 イ いよいよ
エ 整理された	エ たくさん のリンゴが	エ 梅雨が	ウ 深刻な 局面を
ノートを オ 借りた。	イ 届いた。	エ 明けた。	ムかえた。

4 次の(1)～(3)の文の、——線部の文節の働きを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 遠くから、^②虫の^③鳴き声が^④聞こえる。
 (2) 疲れたから、^②ちょっと^③ここらで^④休もうか。
 (3) 身勝手、^②これは、^③彼の^④性格を^⑤表した^⑥ことばだ。



ア 主語 イ 述語 ウ 修飾語
 エ 接続語 オ 独立語

(3)	(2)	(1)
①	①	①
②	②	②
③	③	③
④	④	④
⑤		
⑥		

5 次の(1)～(10)の文の一線部の文節の関係を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(1) 岩田さんだけ、代表に選ばれるだろう。
 (2) 今朝は、寒かったので、厚着した。
 (3) 歩行者や自転車に注意しながら、車を運転する。
 (4) 残された時間はわずかであることが判明した。
 (5) 落ち着いて話しあえば、きっと誤解も解けるだろう。
 (6) 推理小説を読むのは、勉強するよりも面白い。
 (7) 田中さんの思ひがけない発言に、みんなは驚いた。
 (8) 外出する時は、事前に伝えてほしい。
 (9) 泣いてもさけんでも、おもちゃを買ってもらえないかった。
 (10) 走ると、危ないよ。

ア 主語・述語の関係
 ウ 並立の関係
 オ 補助・被補助の関係

イ 修飾・被修飾の関係
 エ 接続・被接続の関係

6 次の(1)～(10)の文から、()内の関係にある二つの文節を探し、それぞれ記号で答えなさい。

(1) この店の料理はエとても油っこい。(主語・述語)
 (2) おそらく暗くて、イせまい。ウ成功するでしょう。(修飾・被修飾)
 (3) ア重要書類をイ金庫にウしまってエ閉じこめられる。(並立)
 (4) ア質問するなり、イ調べるなり、ウ工夫しよう。(並立)
 (5) アもし、イ独りぼっちだったら、ウ寂しいだろう。(接続・被接続)
 (6) ア真相をイ確かめてウみる。エ必要がある。(補助・被補助)
 (7) ア食べながら、イしゃべるのは、ウはしたない。(修飾・被修飾)
 (8) アこの馬は、ウ生まれたばかりなので、エ歩けない。(接続・被接続)
 (9) アもう、イあの公園には、ウだれも、オ行かないだろう。(主語・

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)

(6)	(1)
(7)	(2)
(8)	(3)
(9)	(4)
(10)	(5)